

特集にあたって

東邦大学医療センター大森病院放射線科 堀 正明

今回、「脊椎脊髄先天性疾患・奇形概念と画像診断」という特集を組ませていただきました。

脊椎脊髄先天性疾患、奇形は軽度のものから重度のものまでさまざまです。この分野を専門にしている者でないと若干敬遠しがちな分野であるとは思いますが、放射線科医でもあまり詳しくない先生は、詳細な画像報告書を記載してくれません。ただし、臨床的に無症状であっても別の理由で撮像されたCTやMRI画像で偶然発見される場合もあり、ある程度の知識は必要であると考えています。

このテーマについて、エキスパートの先生方に解説をしていただきました。画像診断に関しては、放射線科医でも特に小児放射線、骨軟部放射線を専門とする先生方に以下の項目に関して執筆をお願いしました。内容は、椎体の形成異常、日常偶然遭遇する先天性疾患、奇形、後頭蓋から頸椎に連続する先天性疾患、奇形、腰仙部皮膚異常所見と閉鎖性脊椎癒合不全、二分脊椎に関連した小児脊椎脊髄疾患についてであり、それぞれ画像を含めた詳細な解説をしていただきました。

さらに概念の理解のために、高相晶士先生に先天性疾患と先天性椎体奇形に伴う脊柱変形の診断と治療の概説をしていただきました。また、加藤美穂子先生には、外科治療から合併症の解説をしていただきましたが、内容としまして単に治療の話だけではなく、発生の解説や多数の画像を含めた、包括的な解説としてまとめいただきました。

今回の特集が、普段は脊椎脊髄先天性疾患・奇形にあまりなじみのない先生方にも、発生を含めた知識および画像の再確認としてお役に立てれば幸いです。なお、ご多忙の中、執筆を担当してくださった先生方と、著者を選ぶのにお世話になりましたほかの編集委員の先生方に感謝申し上げます。